

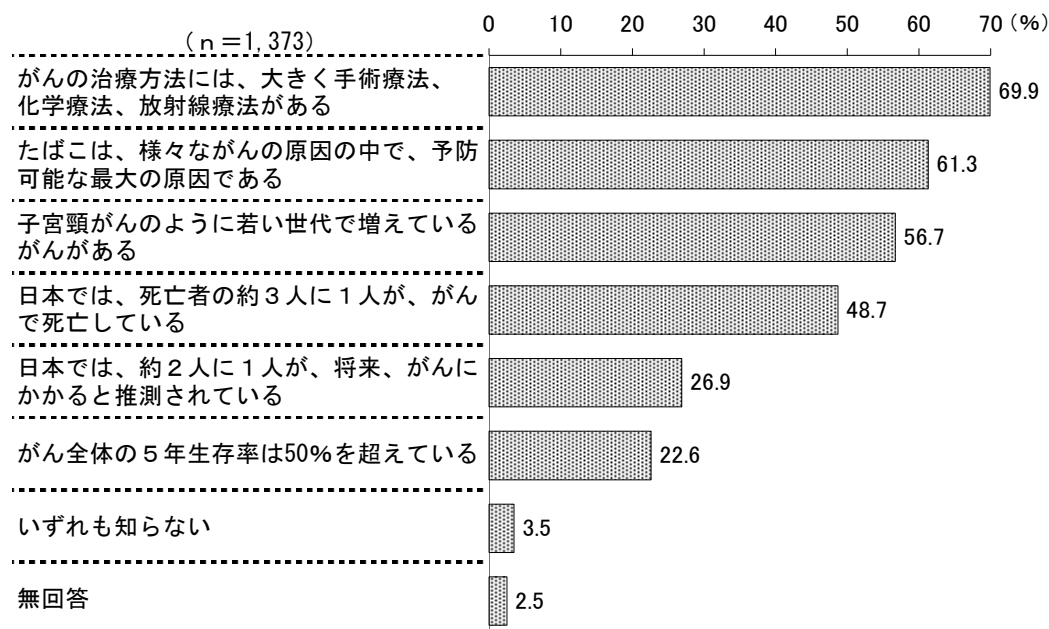
10 とちぎのがん対策等について

(1) がんについて知っていること

問28 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

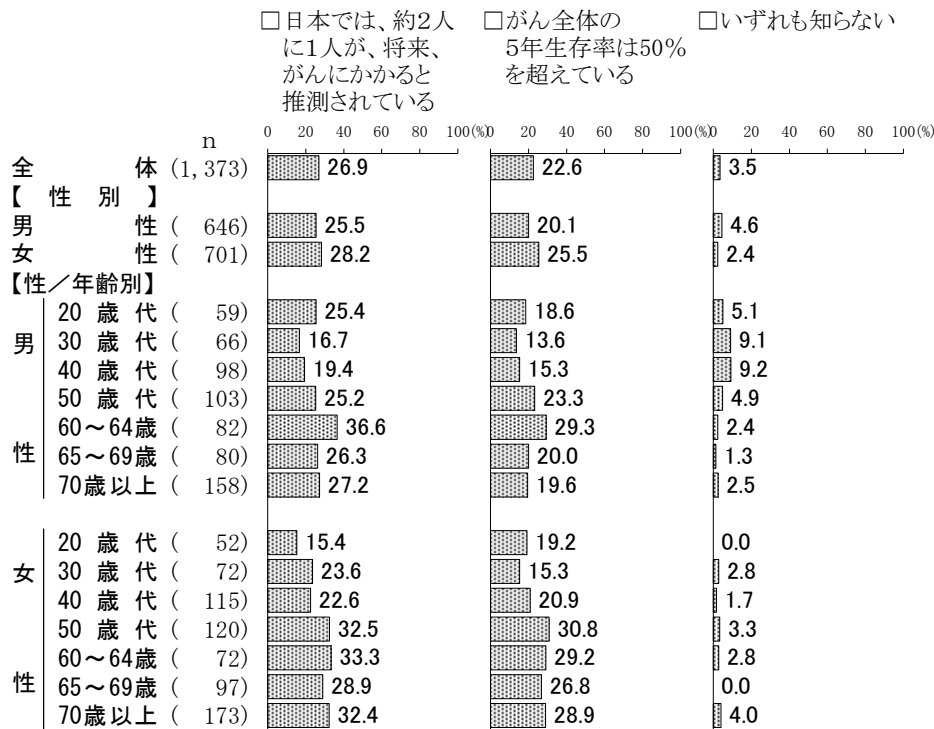
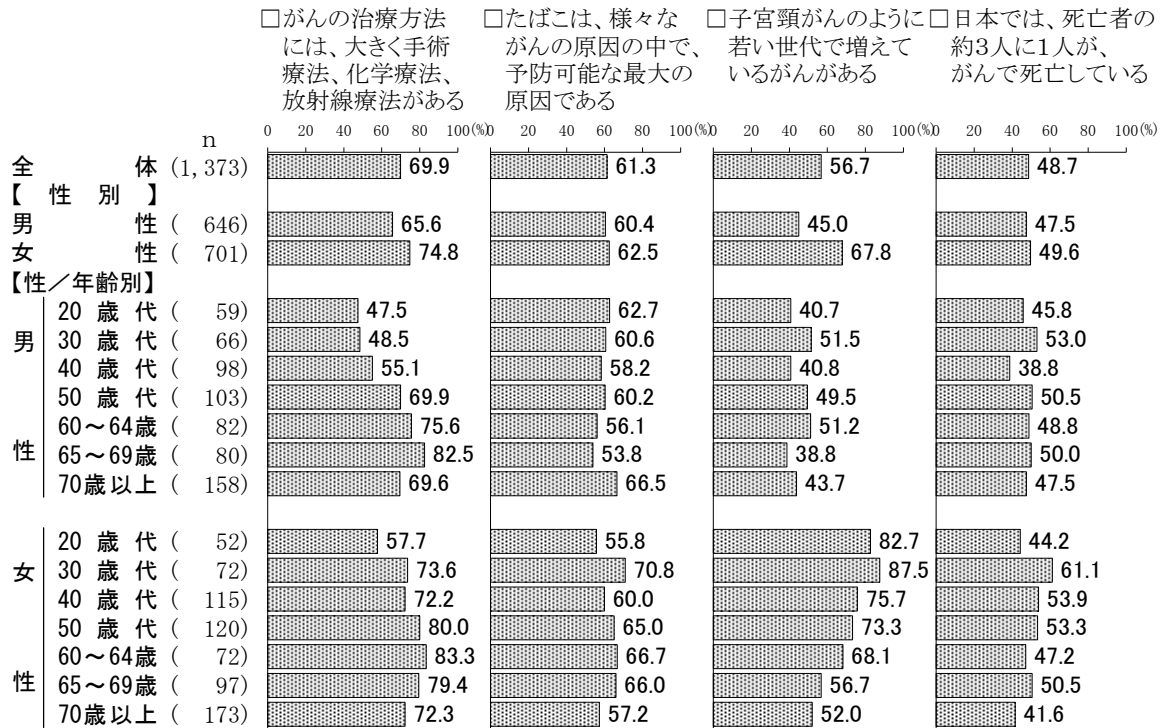
[n=1,373]

1	日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している	48.7%
2	日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかると推測されている	26.9
3	子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある	56.7
4	がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある	69.9
5	がん全体の5年生存率は50%を超えている	22.6
6	たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である	61.3
7	1～6のいずれも知らない	3.5
	(無回答)	2.5



全体で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」(69.9%)が7割で最も高く、次いで「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」(61.3%)、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」(56.7%)、「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」(48.7%)の順となっている。

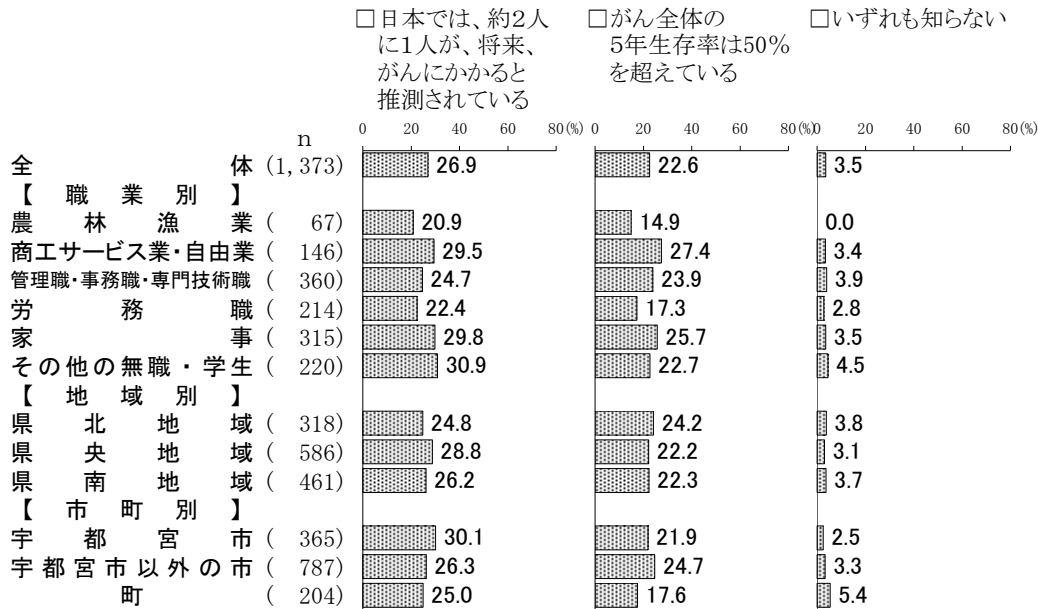
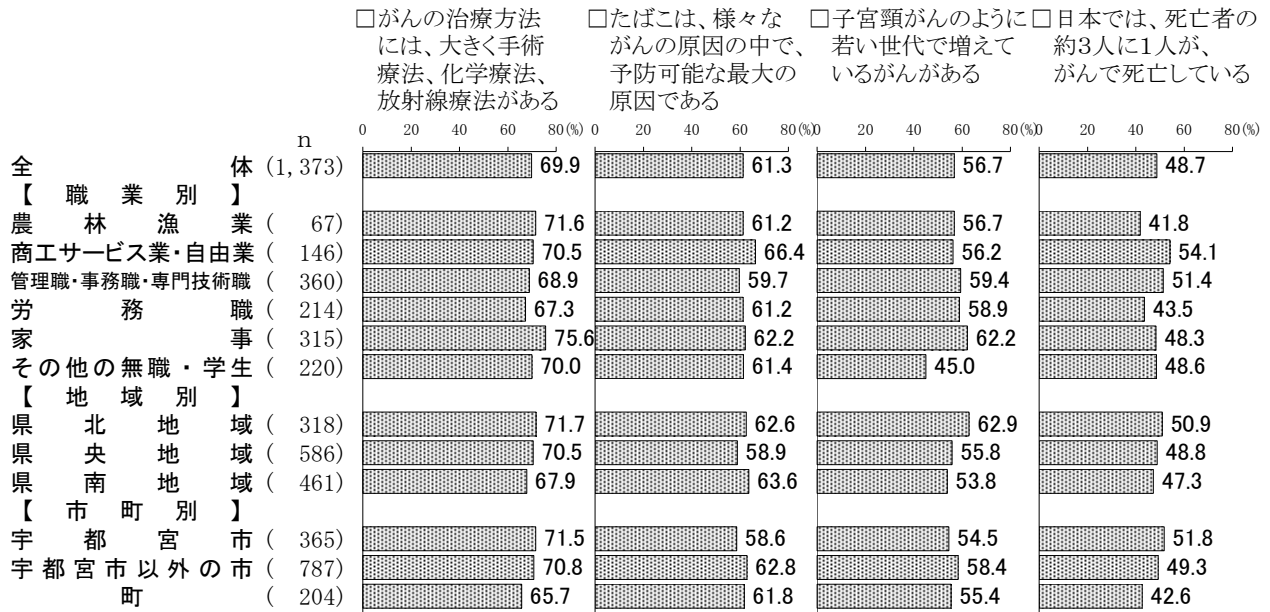
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性〉(67.8%)が〈男性〉(45.0%)より22.8ポイント高くなっている。「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」では〈女性〉(74.8%)が〈男性〉(65.6%)より9.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」では〈女性60~64歳〉が83.3%、〈男性65~69歳〉が82.5%と高くなっている。「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」では〈女性30歳代〉が70.8%と高くなっている。「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性30歳代〉が87.5%と高くなっている。「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈女性30歳代〉が61.1%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」では〈家事〉が75.6%と高くなっている。「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」では〈商工サービス業・自由業〉が66.4%と高くなっている。「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈家事〉が62.2%と高くなっている。「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈商工サービス業・自由業〉が54.1%と高くなっている。

地域別でみると、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈県北地域〉が62.9%と高くなっている。

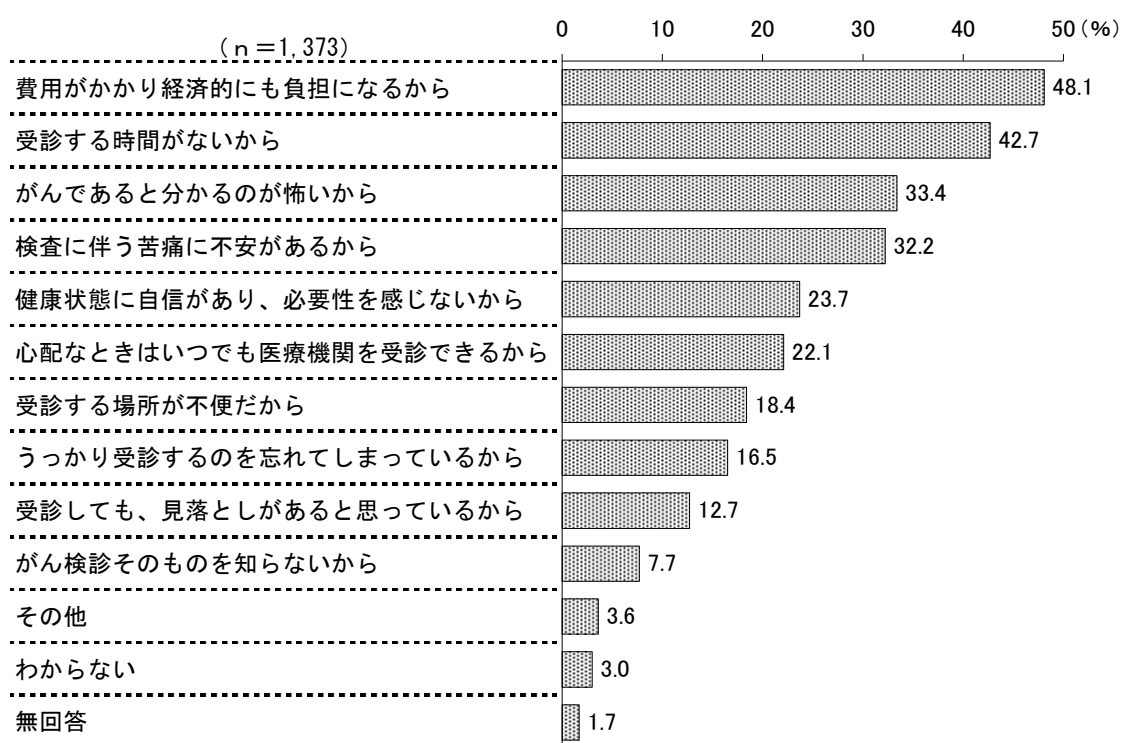
市町別でみると、「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈宇都宮市〉が51.8%と高くなっている。

(2) がん検診を受診しない人が多い理由

問29 がん検診の受診率は、40%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 373]

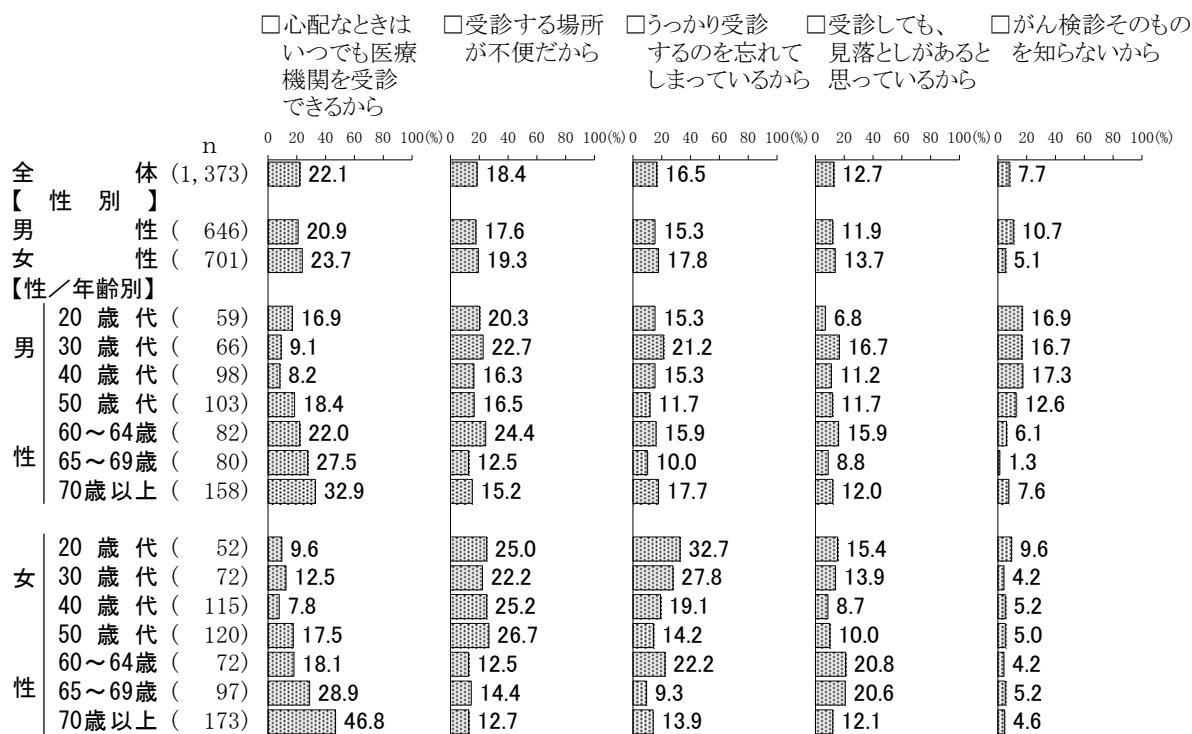
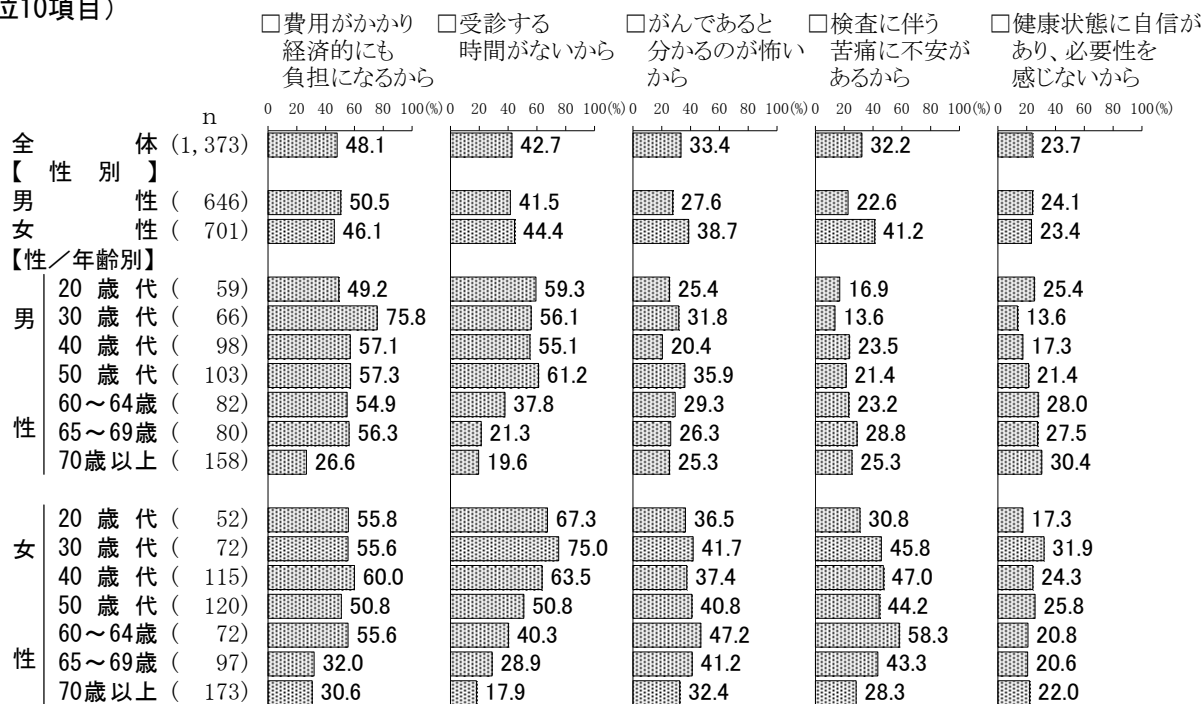
1	がん検診そのものを知らないから	7.7%
2	うっかり受診するのを忘れてしまっているから	16.5
3	受診する時間がないから	42.7
4	受診する場所が不便だから	18.4
5	費用がかかり経済的にも負担になるから	48.1
6	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	23.7
7	検査に伴う苦痛に不安があるから	32.2
8	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	22.1
9	がんであると分かるのが怖いから	33.4
10	受診しても、見落としがあると思っているから	12.7
11	その他	3.6
12	わからない	3.0
	(無回答)	1.7



全体で見ると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「受診する時間がないから」(42.7%)、「がんであると分かるのが怖いから」(33.4%)、「検査に伴う苦痛に不安があるから」(32.2%)、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」(23.7%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

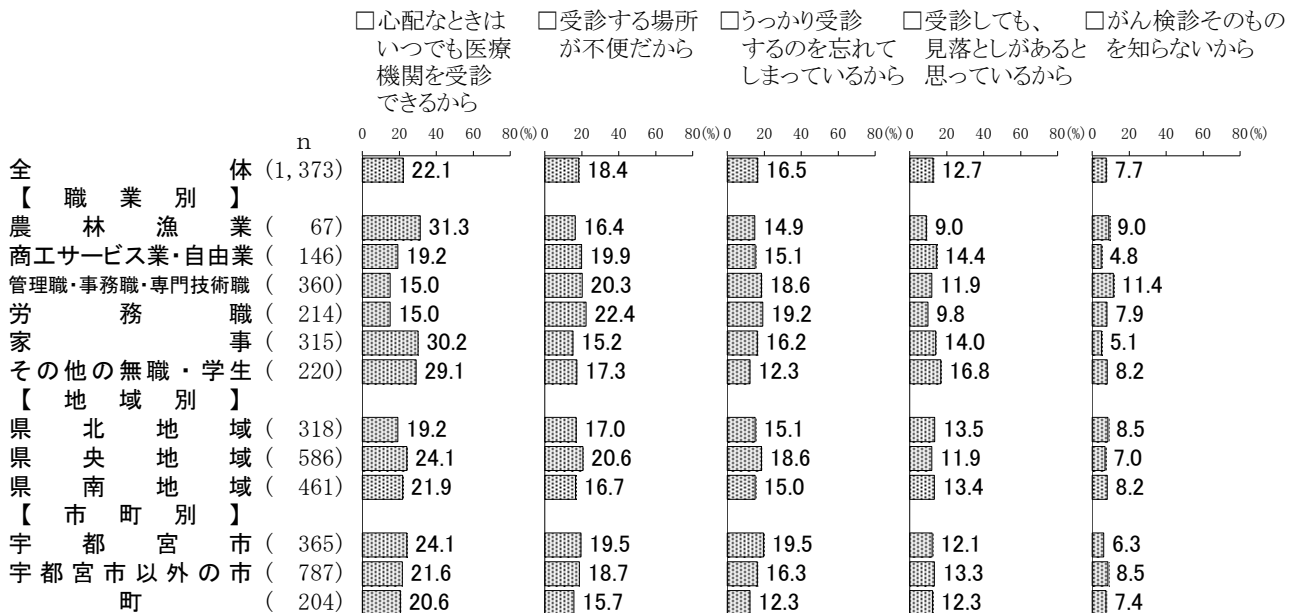
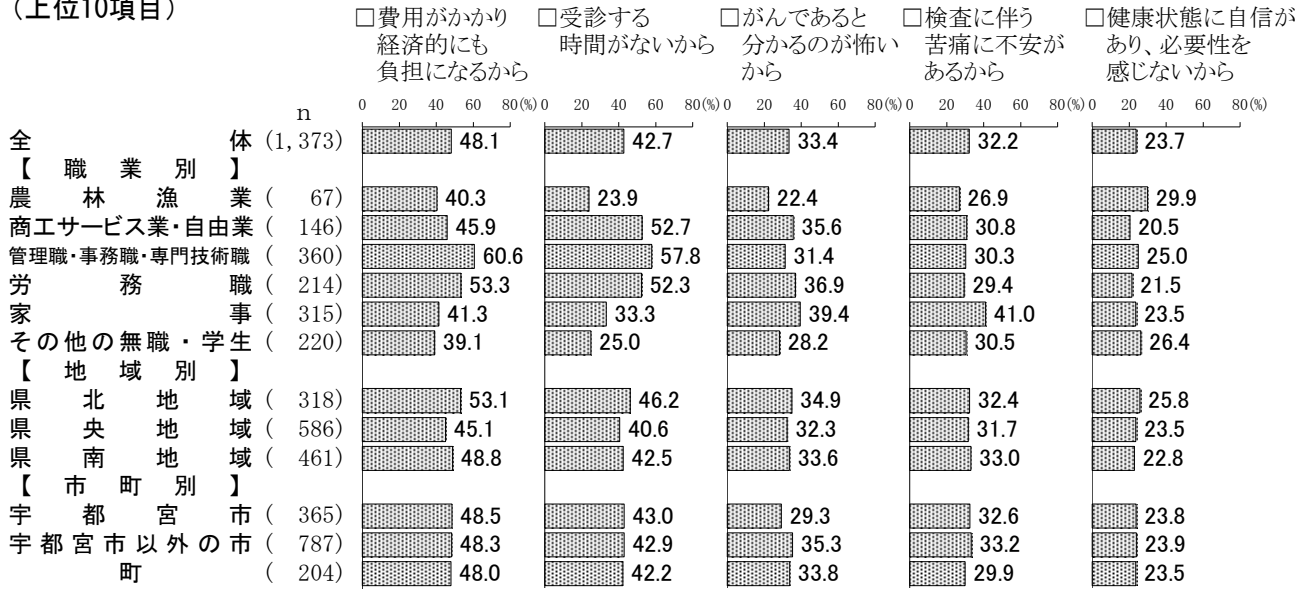


性別でみると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉(41.2%)が〈男性〉(22.6%)より18.6ポイント高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性〉(38.7%)が〈男性〉(27.6%)より11.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈男性30歳代〉が75.8%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性60~64歳〉が58.3%と高くなっている。「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では〈女性70歳以上〉が46.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が60.6%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が57.8%と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈家事〉が41.0%と高くなっている。「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では〈農林漁業〉が31.3%、〈家事〉が30.2%、〈その他の無職・学生〉が29.1%と高くなっている。

地域別でみると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈県北地域〉が53.1%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈県北地域〉が46.2%と高くなっている。

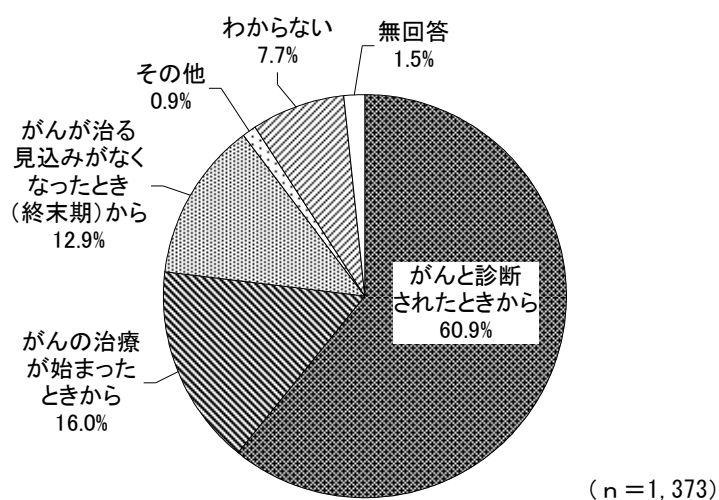
市町別でみると、「がんであると分かるのが怖いから」では〈宇都宮市以外の市〉が35.3%と高くなっている。「うっかり受診するのを忘れてしまっているから」では〈宇都宮市〉が19.5%と高くなっている。

(3) 緩和ケアを実施すべきだと思う患者の状態

問30 がんに対する緩和ケアとは、「がんに伴う体と心の痛みを和らげること」です。
あなたは、緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

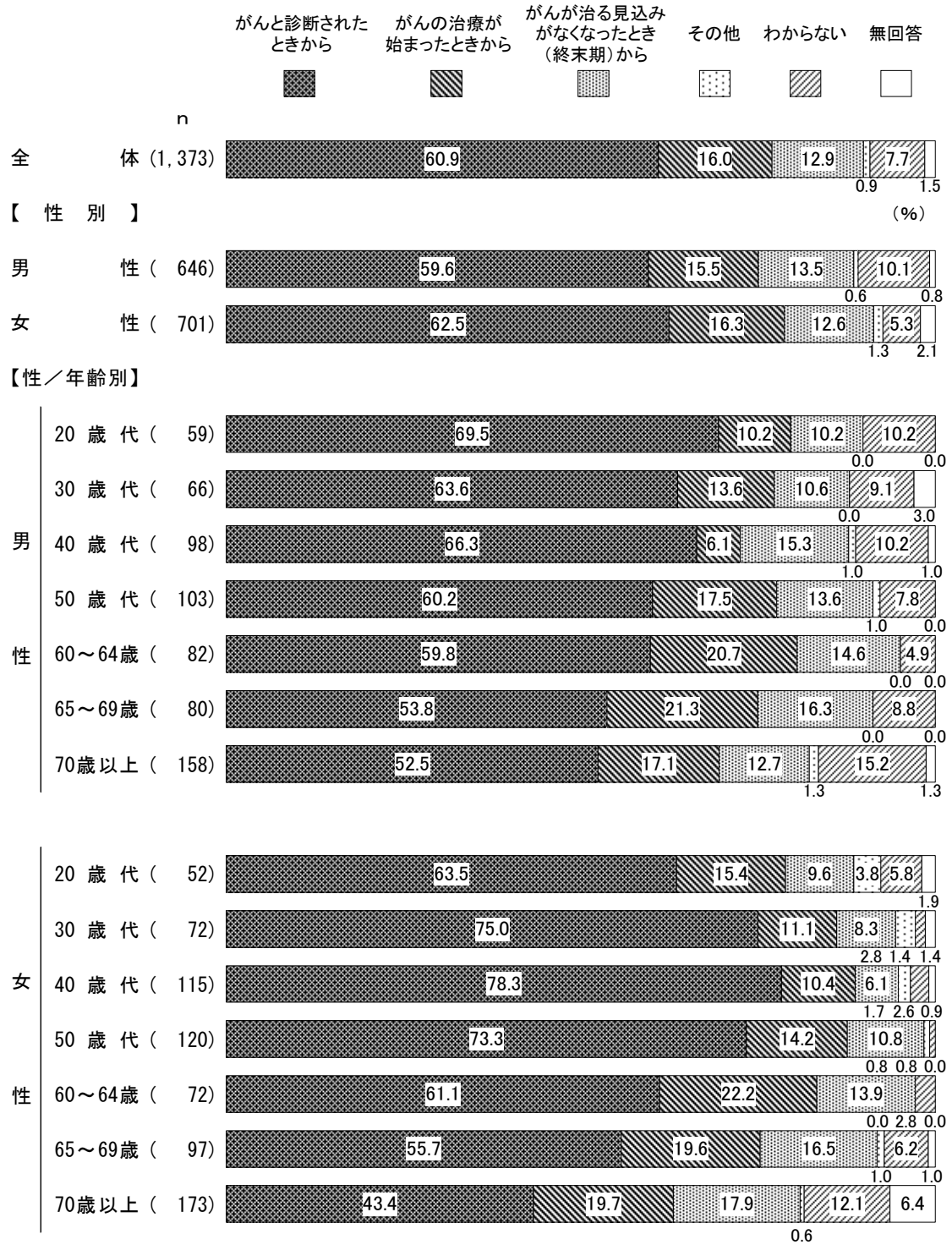
[n=1,373]

1	がんと診断されたときから	60.9%
2	がんの治療が始まったときから	16.0
3	がんが治る見込みがなくなったとき（終末期）から	12.9
4	その他	0.9
5	わからない	7.7
	(無回答)	1.5



全体で見ると、「がんと診断されたときから」(60.9%)がほぼ6割で最も高く、次いで「がんの治療が始まったときから」(16.0%)、「がんが治る見込みがなくなったとき（終末期）から」(12.9%)の順となっている。

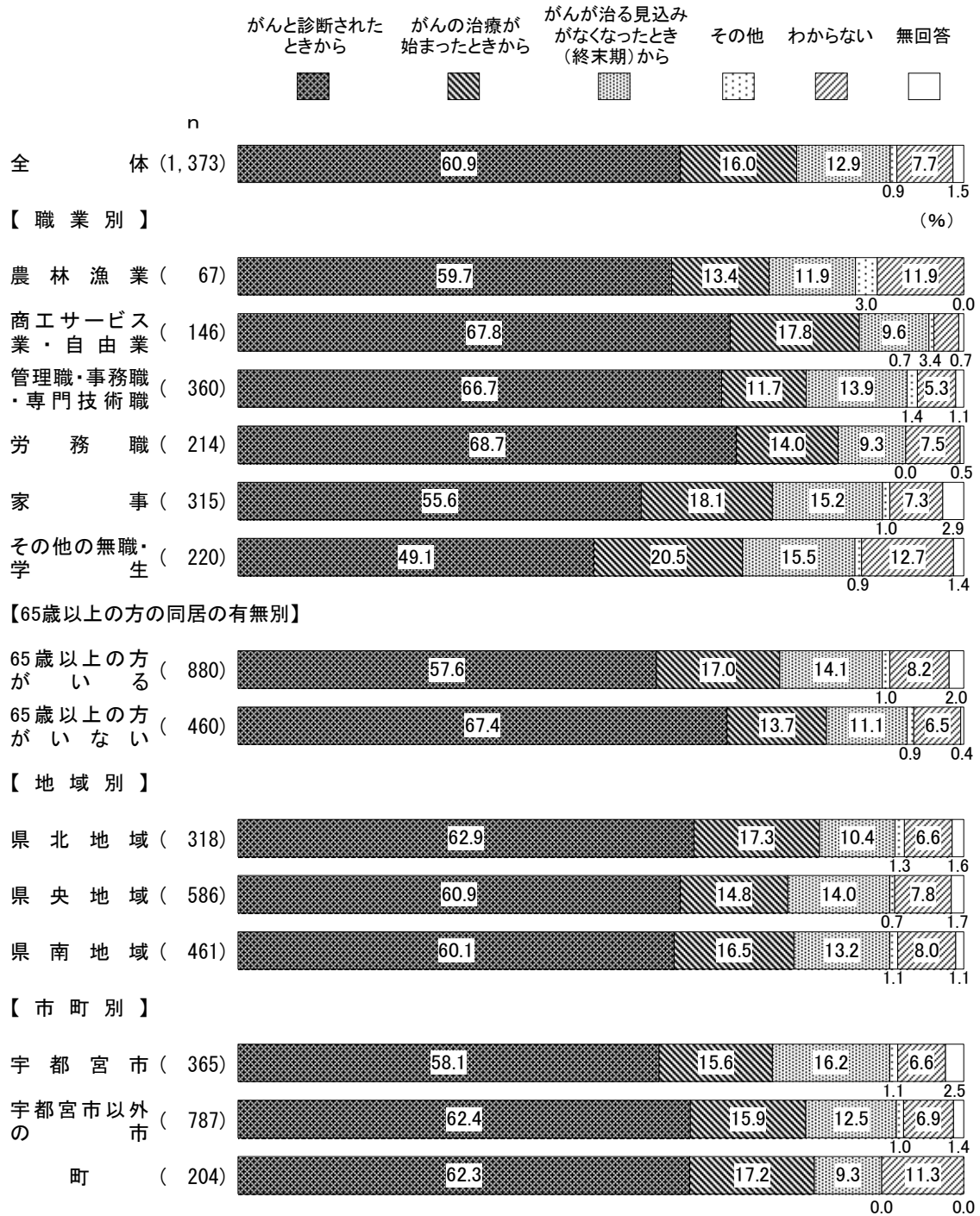
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「がんが診断されたときから」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(59.6%)より2.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「がんが診断されたときから」では〈女性40歳代〉が78.3%、〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。「がんの治療が始まったときから」では〈女性60～64歳〉が22.2%、〈男性65～69歳〉が21.3%、〈男性60～64歳〉が20.7%と高くなっている。

[職業別・65歳以上の方の同居の有無別・地域別・市町別]



職業別でみると、「がんと診断されたときから」では〈労務職〉が68.7%、〈商工サービス業・自由業〉が67.8%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が66.7%と高くなっている。

65歳以上の方の同居の有無別でみると、「がんと診断されたときから」では〈65歳以上の方がいない〉人が67.4%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

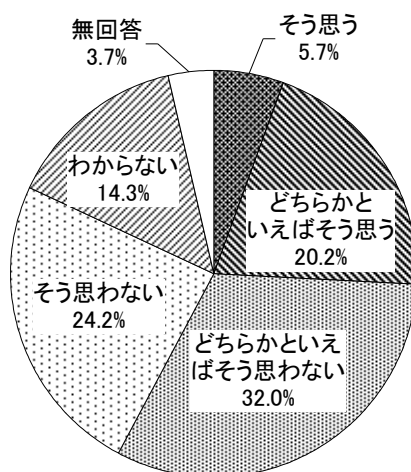
市町別でみると、「がんが治る見込みがなくなったとき(終末期)から」では〈宇都宮市〉が16.2%と高くなっている。

(4) がんの治療・検査のために通院しながら働き続ける社会の環境

問31 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]

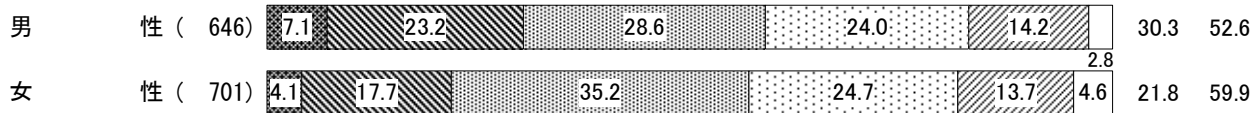
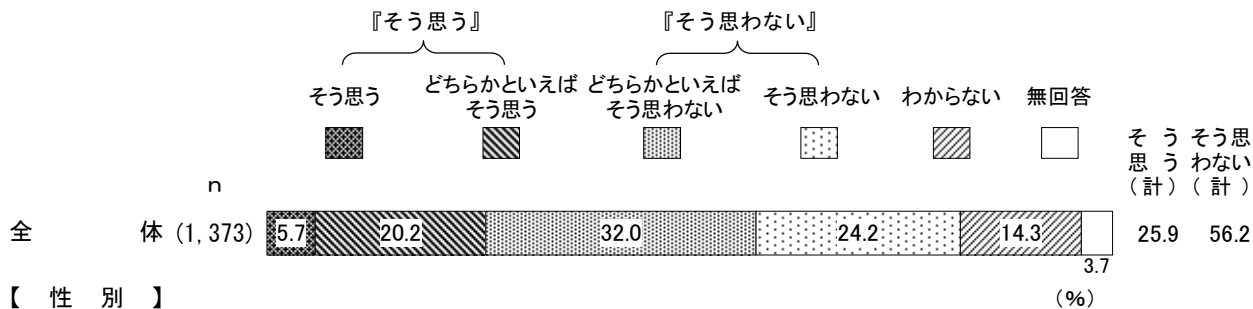
1	そう思う	5.7%	4	そう思わない	24.2%
2	どちらかといえばそう思う	20.2%	5	わからない	14.3%
3	どちらかといえばそう思わない	32.0%		(無回答)	3.7%



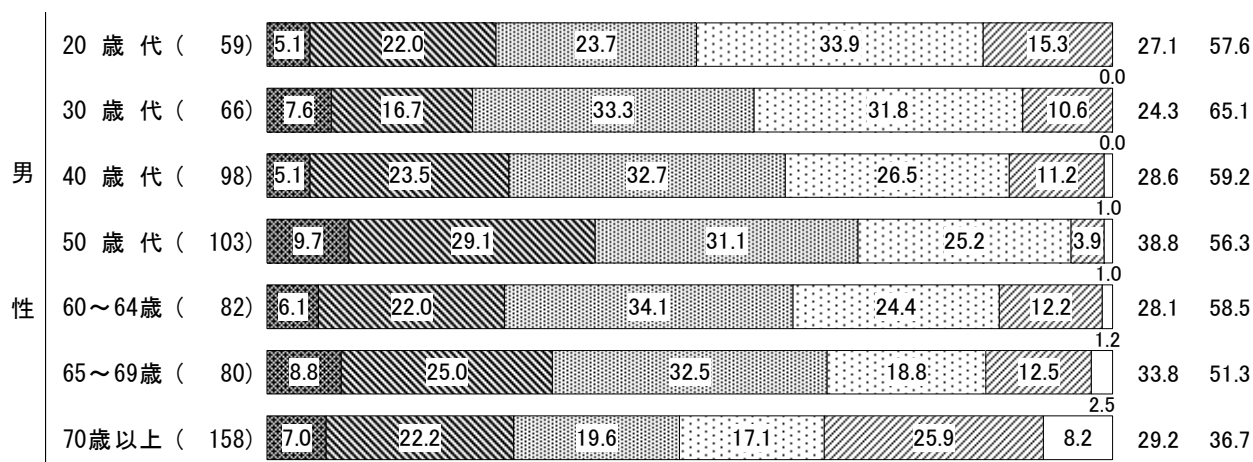
(n=1,373)

全体でみると、「そう思う」(5.7%)と「どちらかといえばそう思う」(20.2%)の2つを合わせた『そう思う』(25.9%)は2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(32.0%)と「そう思わない」(24.2%)の2つを合わせた『そう思わない』(56.2%)は5割半ばとなっている。

[性別・性／年齢別]



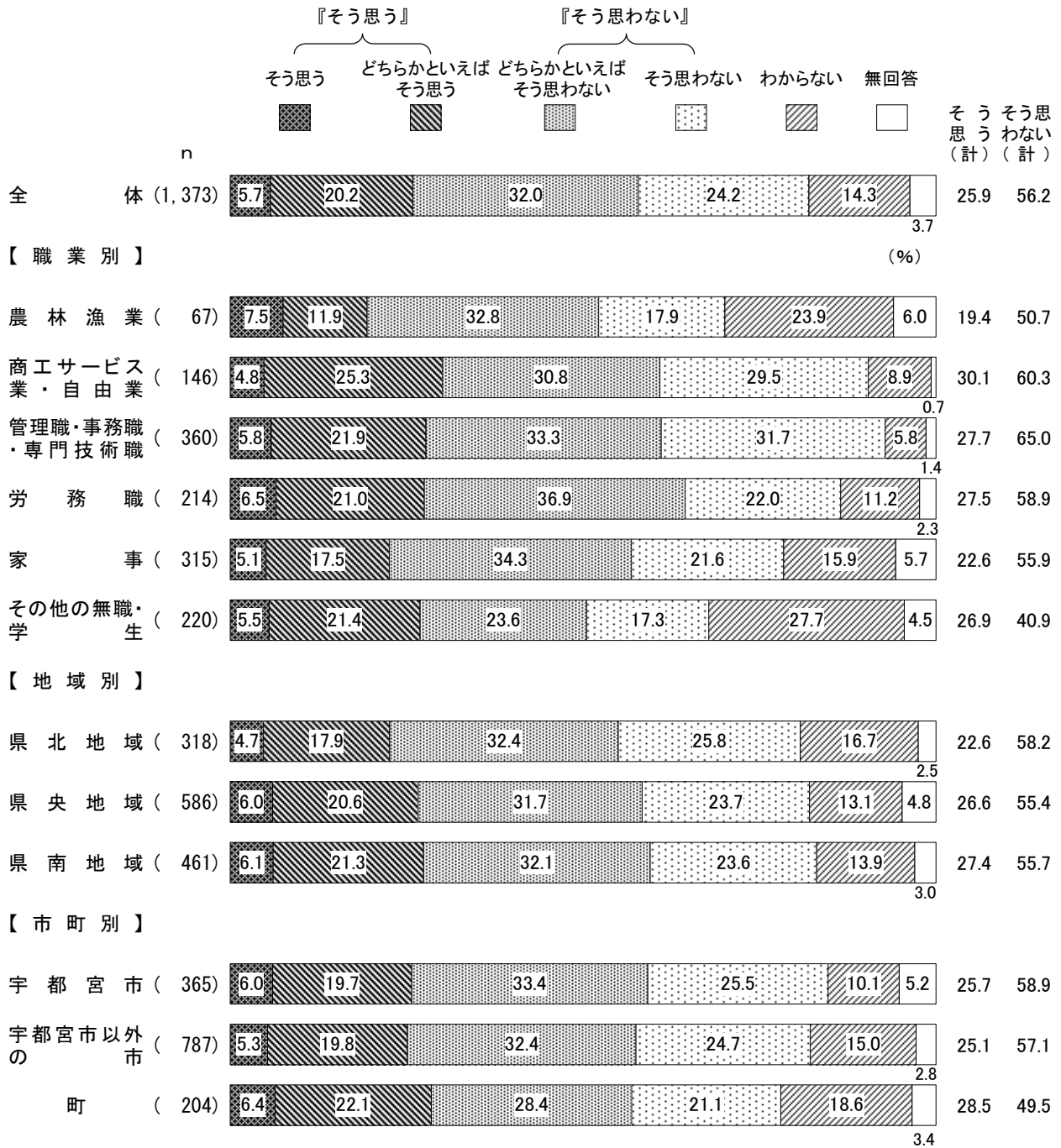
【性／年齢別】



性別で見ると、『そう思う』では〈男性〉(30.3%)が〈女性〉(21.8%)より8.5ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(52.6%)より7.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『そう思う』では〈男性50歳代〉が38.8%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈女性30歳代〉が80.6%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『そう思う』では〈商工サービス業・自由業〉が30.1%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が65.0%と高くなっている。

地域別で見ると、『そう思う』では〈県南地域〉が27.4%、〈県央地域〉が26.6%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈県北地域〉が58.2%と高くなっている。

市町別で見ると、『そう思う』では〈町〉が28.5%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈宇都宮市〉が58.9%、〈宇都宮市以外の市〉が57.1%と高くなっている。

(4-1) がんの治療・検査のために通院しながら働き続けるための妨げになること

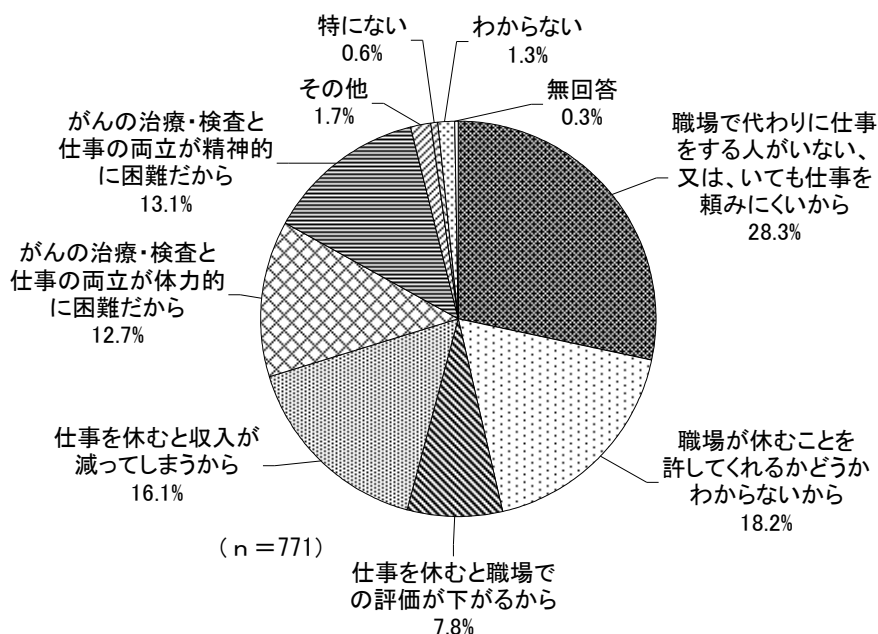
(問31で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問31-1 がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。

次の中から1つ選んでください。

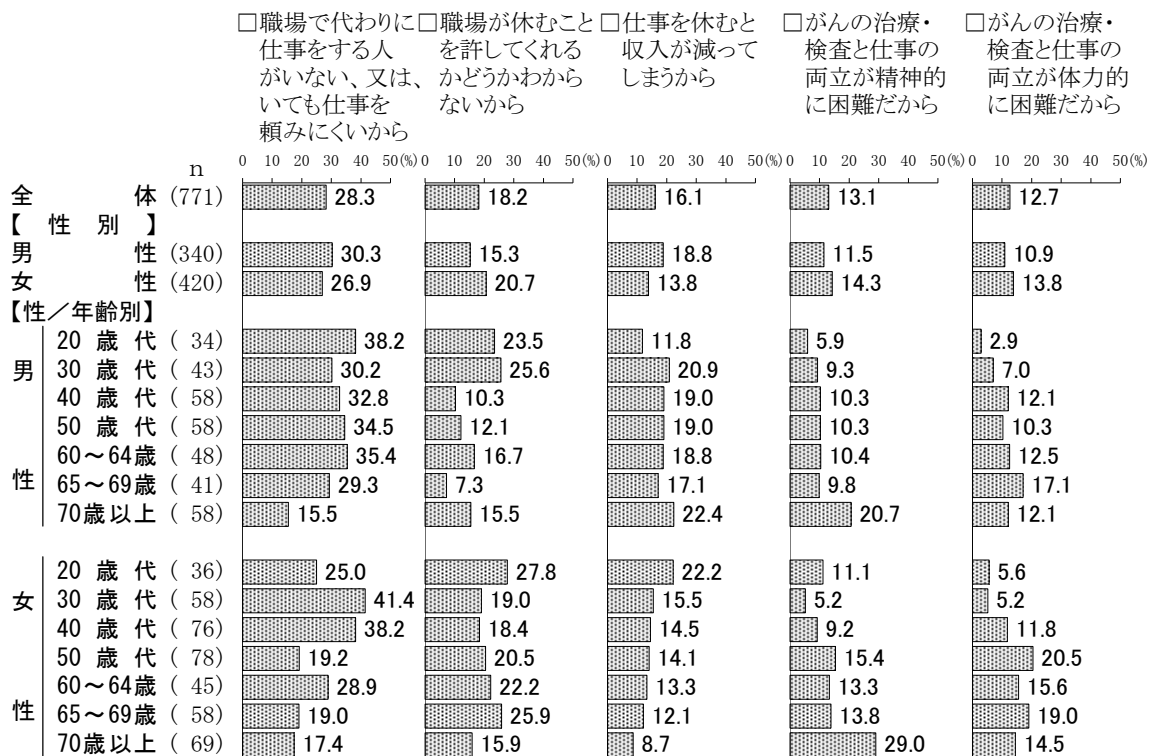
[n=771]

1	職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから	28.3%
2	職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから	18.2
3	仕事を休むと職場での評価が下がるから	7.8
4	仕事を休むと収入が減ってしまうから	16.1
5	がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから	12.7
6	がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから	13.1
7	その他	1.7
8	特にない	0.6
9	わからない	1.3
	(無回答)	0.3



全体で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」(28.3%)が3割近くで最も高く、次いで「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」(18.2%)、「仕事を休むと収入が減ってしまうから」(16.1%)、「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」(13.1%)、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」(12.7%)の順となっている。

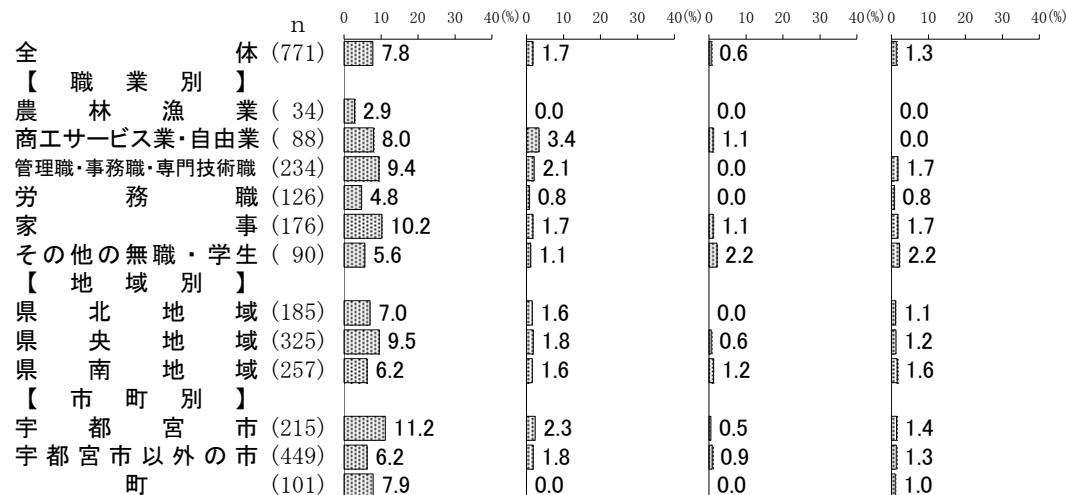
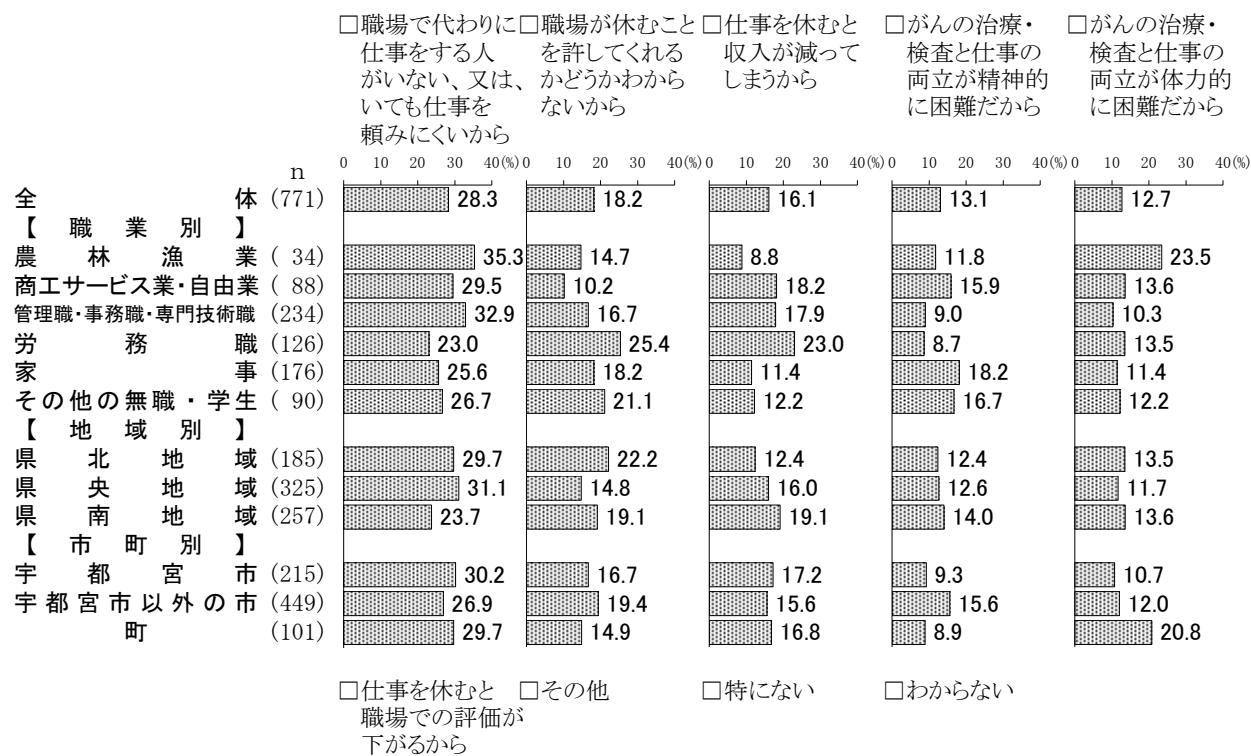
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「職場が休むことを許してくれるかどうか分からないから」では〈女性〉(20.7%)が〈男性〉(15.3%)より5.4ポイント高くなっている。「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈男性〉(18.8%)が〈女性〉(13.8%)より5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」では〈女性30歳代〉が41.4%と高くなっている。「職場が休むことを許してくれるかどうか分からないから」では〈女性20歳代〉が27.8%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」では〈女性70歳以上〉が29.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」では〈農林漁業〉が35.3%と高くなっている。「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」では〈労務職〉が25.4%と高くなっている。「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈労務職〉が23.0%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」では〈農林漁業〉が23.5%と高くなっている。

地域別でみると、「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」では〈県北地域〉が22.2%と高くなっている。「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈県南地域〉が19.1%と高くなっている。

市町別でみると、「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」では〈宇都宮市以外の市〉が19.4%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」では〈宇都宮市以外の市〉が15.6%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」では〈町〉が20.8%と高くなっている。

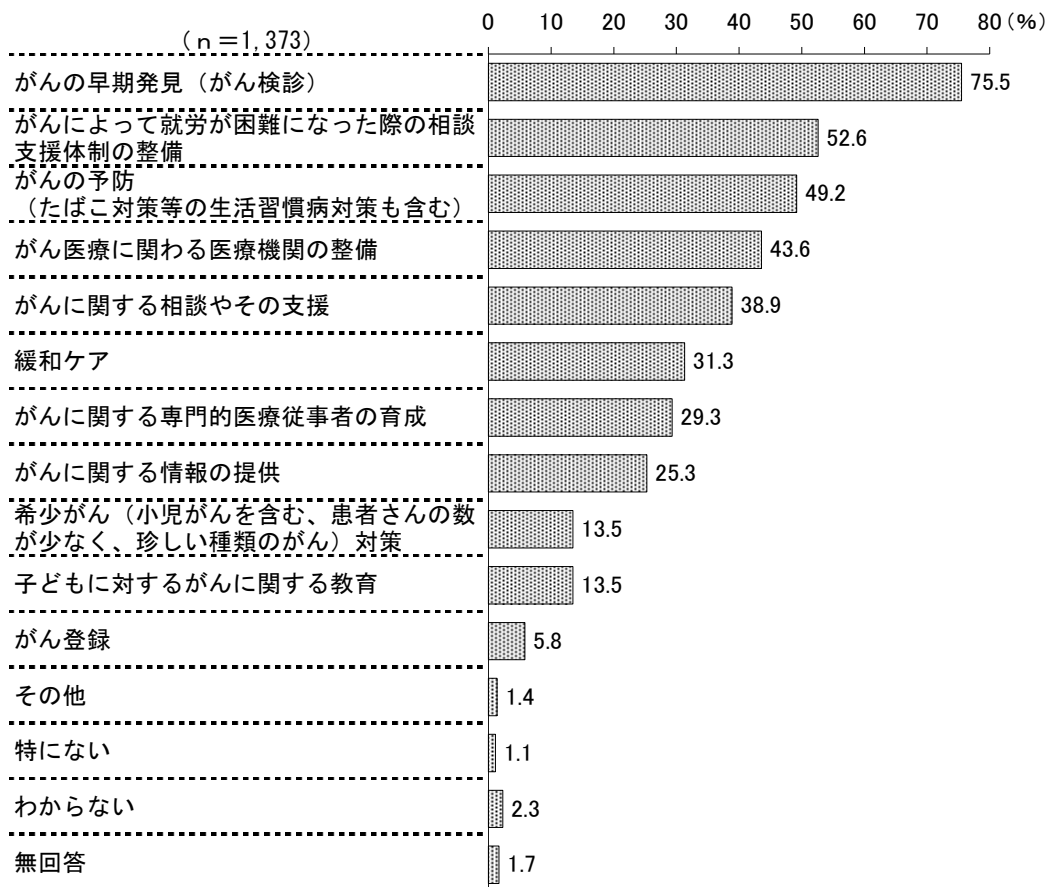
(5) 県のがん対策で重要だと思うこと

問32 これからの県のがん対策について、あなたは何が重要だと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,373]

1	がんの予防 (たばこ対策等の生活習慣病対策も含む)	49.2%	9	子どもに対するがんに関する教育	13.5%
2	がんの早期発見 (がん検診)	75.5	10	がんによって就労が困難になった 際の相談支援体制の整備	52.6
3	がんに関する情報の提供	25.3	11	がん登録 (※)	5.8
4	がんに関する相談やその支援	38.9	12	その他	1.4
5	がん医療に関わる医療機関の整備	43.6	13	特にない	1.1
6	がんに関する専門的医療従事者の育成	29.3	14	わからない	2.3
7	緩和ケア	31.3	(無回答)		1.7
8	希少がん(小児がんを含む、患者さんの 数が少なく、珍しい種類のがん)対策	13.5			

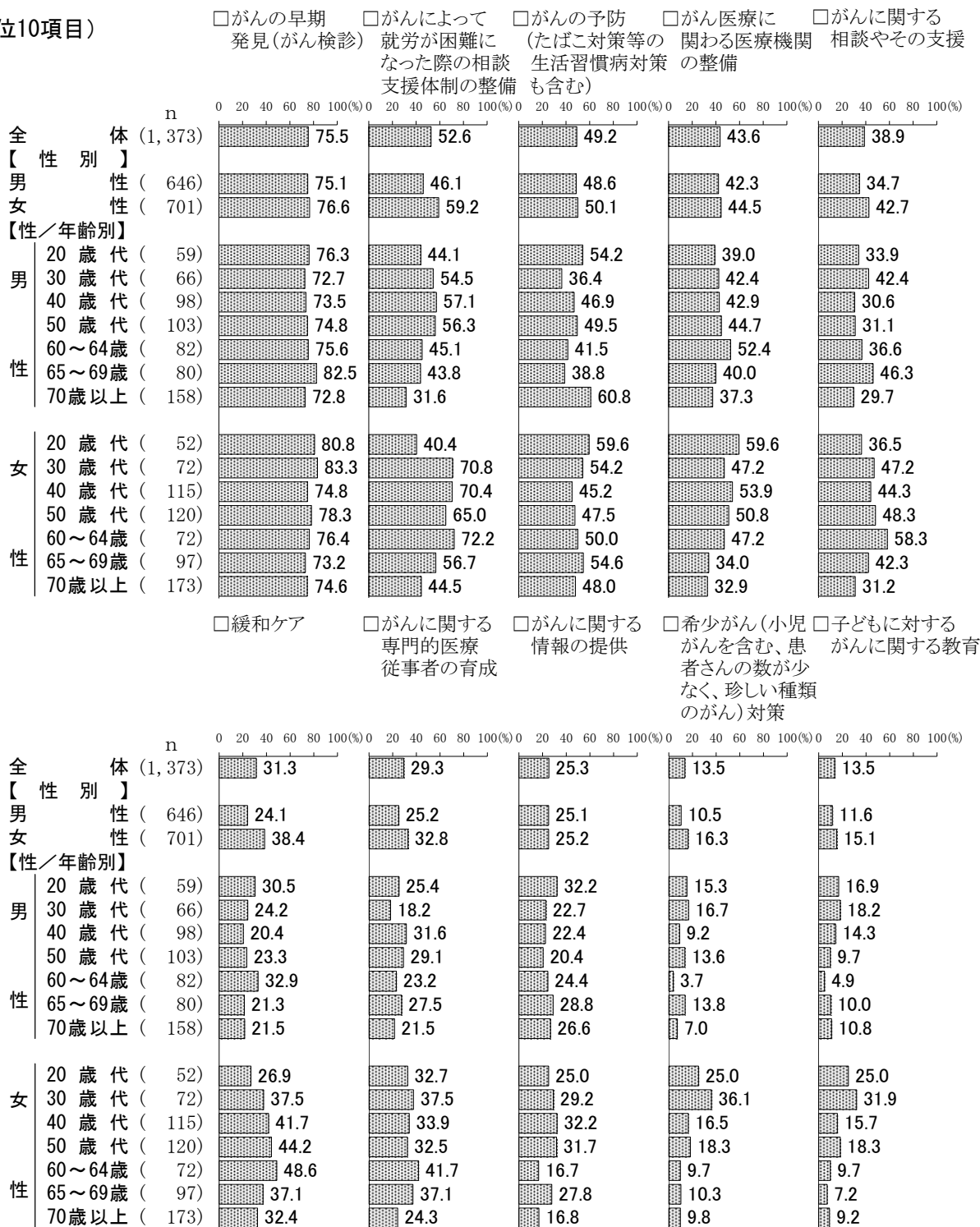
※ がん登録とは、今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、一人ひとりのがん患者に関する診断名やその後の経過、生存状況等の情報を収集する仕組みです。



全体でみると、「がんの早期発見 (がん検診) 」(75.5%) が7割半ばで最も高く、次いで「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」(52.6%)、「がんの予防 (たばこ対策等の生活習慣病対策も含む) 」(49.2%)、「がん医療に関わる医療機関の整備」(43.6%)、「がんに関する相談やその支援」(38.9%) の順となっている。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

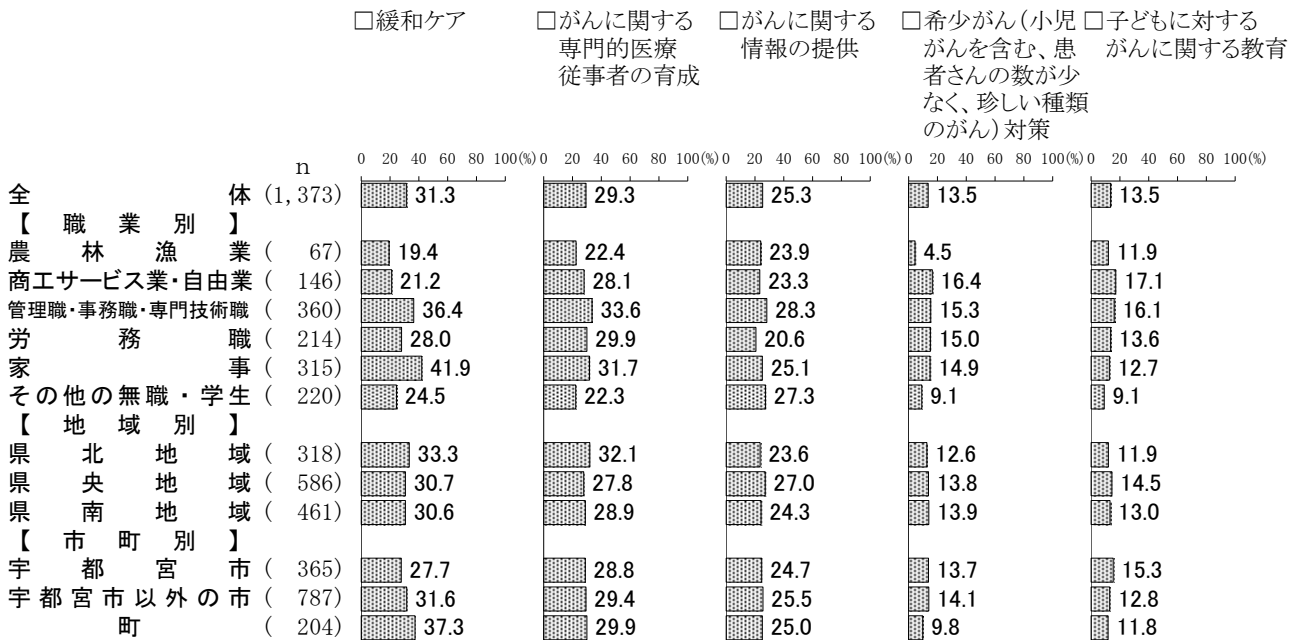
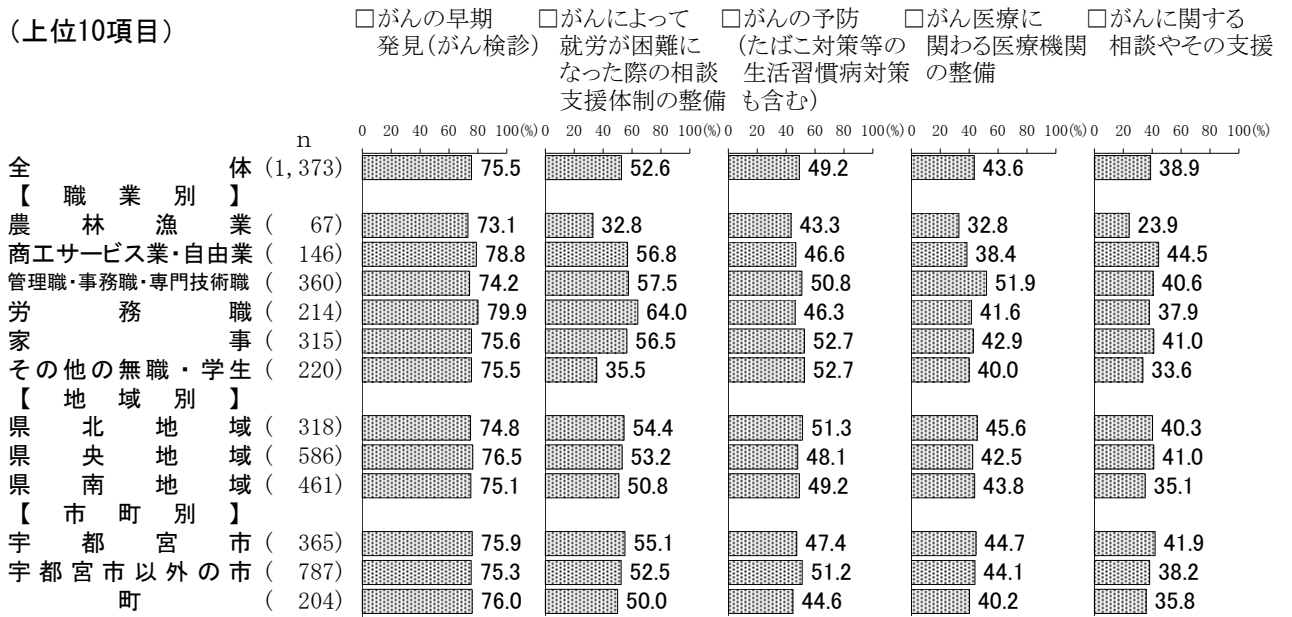


性別で見ると、「緩和ケア」では〈女性〉(38.4%)が〈男性〉(24.1%)より14.3ポイント高くなっている。「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」では〈女性〉(59.2%)が〈男性〉(46.1%)より13.1ポイント高くなっている。「がんに関する相談やその支援」では〈女性〉(42.7%)が〈男性〉(34.7%)より8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」では〈女性60~64歳〉が72.2%と高くなっている。「がんの予防(たばこ対策等の生活習慣病対策も含む)」では〈男性70歳以上〉が60.8%と高くなっている。「がん医療に関わる医療機関の整備」では〈女性20歳代〉が59.6%と高くなっている。「がんに関する相談やその支援」では〈女性60~64歳〉が58.3%と高くなっている。

【職業別・地域別・市町別】

(上位10項目)



職業別でみると、「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」では〈労務職〉が64.0%と高くなっている。「がん医療に関わる医療機関の整備」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が51.9%と高くなっている。「緩和ケア」では〈家事〉が41.9%と高くなっている。

地域別でみると、「がんに関する相談やその支援」では〈県央地域〉が41.0%、〈県北地域〉が40.3%となっており、〈県南地域〉(35.1%)に比べて高くなっている。

市町別でみると、「がんの予防(たばこ対策等の生活習慣病対策も含む)」では〈宇都宮市以外の市〉が51.2%と高くなっている。「緩和ケア」では〈町〉が37.3%と高くなっている。